

「時には、近所の銀行や商社の社員食堂で、辛い定食を食べます」
日本で食べない食材に、蛙、亀、ヘビなどがある。特に蛙はポピュラーな食材で、スーパーの海鮮売場のガラスケースの中の人気者だ。

亀(ウグイ)も水槽の中でこそそしている。買い物に付いて来た子供が、亀の頭を突いて遊ぶ。
ところで、蛙(チンワ)は政府の保護動物とかで本当は食べてはいけないらしいが、飲酒運転や交通違反と同じで、決まりや規則を守る方が、珍しい国なのである。なのに街中にはバトカーが「**ウグイウグイ**」という。「一体、彼等は何をしてるんだろう?」

日本の魚屋には、採られて、切り身、冷凍、どれも活魚ではないけど、中国の海鮮売場では魚は水槽で泳いでいる。もちろん海鮮といっても日本という海で獲れる魚と同じではない。川魚だろうと、池のタニシだろうと、魚介類は全て海鮮なのだ。

中華料理には、刺身も無ければ焼き魚もない。食事の時、自分の前に取り皿や薬味を入れる小皿がないのは、淋しいかぎりである。
また、中国人は、食事中にはあまり水分を取らない。僕は茶水代わりにいつもビールを飲んでた。飲まない料理が辛すぎて食べられないからだ。

ぬるいビールが4元くらいだから水と思えばよい。冷えたビールを飲みたい時は、給仕に**ヒンダ!**(氷的)と大声で叫ばなければならぬ。

でも、返って来る答えはいつも、**メイヨ**「ありません」である。冷たいものだ。

この「**没有**」と言う中国語は、会話の常用語なのだ。いろいろなシチュエーションで**メイヨ**(ないよ!)は多用される。

日本だとこの場合、たとえ無くても、断定的に「無い」とは言わない。かならず親切の尾ひれがつく。

よく、中国人は、おせっかいで親切というが、あれは好奇心から来るもので、実際はそうでもない。公共心とか寛容とかいうものは、持ち合わせていないようだ。まさに自己中心といえる。だから先日の愛国心のするようなサッカーの応援は、不思議な気がした。

ある日、機嫌がよかったのか、「**没有**」のあと「冷やしたビールはないけど、氷ならあるヨ。」と、食堂の小姐が言った。

「オウ! 謝罪!! オンザロック **ビジヨ**(ビール) **イイネ**」と、大きな水をいっぱいに入れてもらい、飲んだのはよかったけど、その夜は、五分置きトイレ通いで散々な目にあっただ。

決して飲んではいけない水道水で作った氷だったのだ。

中国人は遊び好きが多い。娯楽の世界でも発展はめざましく、長沙市にも酒バーやカラオケなどに加え、この頃は超大型温泉センターが増えしてきた。

習慣なのか、彼らは浴場を歩く時、全くすっぽんばんである。日本人はタオルをそえる習慣があるが、彼らにはない。



青海湖の大草原に群れる羊。70万ヤードのフェアウエイが延々と続く。



我眉山の大猿は、女性のスカートを集団で脱がす。痴漢猿と呼ばれている。



永遠の鳳凰(ホンファン)・・・僕が一番心に残った風景。



中国人は何故か風揚げが好き。公園、河原で風揚げに夢中。



高度3500メートル。黄龍観光の必需品：酸素吸入浮袋を抱えて。



雲南、貴州は可愛い少数民族がいっぱい。苗族、土家族、白族・・・



中国第一寺、白馬寺(洛陽)にある、空海の銅像。



憧れの黄河を筏で下る。後ろは、羊の皮袋でできた筏。

羞恥心と関係があるのかと思い、「女性も一緒にですか?」と、発展的女子学生の袁静に訊いてみた。「行ったことがない」と、フイと横を向かれた。多分スケベな日本人と思ったことだろう。 **シマッター!**

「イッパン(一番)心に残った風景は下ノヤッタケ?」

鳳凰(ホンファン)という古い(300年前の清朝)街で見た風景だった。僕のHPの**永遠の鳳凰(ほんぷん)**より。

面帳をひらくと、一条の河流が古い城をたすさえて真正面から顔に当たってくる。

横からみると一幅の絵に見える。縦から観ると、詩一首に見える。・・・鳳凰大橋から虹橋を臨む景色を言葉で表現するのは難しい。見る人、それぞれの感性にかかっているからだろう。

僕に鳳凰行を薦めてくれた多くの友人が、そのワケを言わなかった理由が橋に立ってみて、初めて分かった。

とつともなく巨大なセットの前に自分があるような錯覚。時が一瞬とまる。目の奥に浮かぶ、見たこともない昔の遠い支那の田舎の街並が現れる。そこへタイムスリップして、幻覚体験をしている自分。

・・・じっと目を閉じると、岸辺でバタバタと衣服を叩く洗濯棒の音、談笑している女たち声。裸で水遊びをしている子供達の歓声が頭の中の幻想世界に取り込まれていく。
現実に戻った僕も、友人達に言いたい。
「上手く言えないけど、一度、鳳凰に行ってみませんか?」
僕に鳳凰を教えた友人たちと同じように・・・

まだまだあるセルの中、一番「怖かったこと」「惜しかったこと」「恥すかしかったこと」「バニックになったこと」そして「誰にも言えない秘密のこと」など目白押しだが紙面がない。

ところで皆さんも自分だけのセル作りに励んでいますか? 僕は、とりあえずの賞味期限をあと五年に設定しました。五年は微妙な数字だと思いませんか? 未だ、少しは**先**のようでもあり、いやいや、**すくそ**のような気もします。

五年前を振り返れば昨日のよう!! が実感だったりして。
(a)の 勝手ながら僕の五年は毎年最新日記です。

本当の最後に一言。こちらに来て、いつも胸が痛むのが物乞いの子供たちの多いことだ。街の中、地下鉄の車内、公園と、どの都市に行ってもやたら目に付く光景である。
歩く事の出来ない奇形児らを正視する勇氣は僕にはない。食事中に、そっと擦り寄ってくる乞食の子供なら、せめて一角の小銭でもあげるけど、地べたに身を投げ出しいる不具な子供を見かけると、横を向いたまま足早に過ぎるしか術がない。

繁栄への道をひた走る大中国のまず一番にしなければならぬこと、それはこんなことからではないだろうか?

再見(サイ シェン)!